

令和5年度全国学力・学習状況調査分析と活用

# 質問紙調査結果の分析と今後の取組

熊本県教育委員会

# 「児童生徒に対する調査」の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
慣 生 基 等 活 本 習 的	朝食を毎日食べていますか	94.1	93.9	+0.2	92.5	91.2	+1.3
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	90.2	90.5	-0.3	91.9	91.3	+0.6
自 規 挑 己 範 戦 有 意 心 用 識 、 等 感 達 成 感	自分には、よいところがあると思いますか	82.2	83.5	-1.3	78.5	80.0	-1.5
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	90.2	89.8	+0.4	88.1	87.3	+0.8
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	94.1	93.0	+1.1	88.2	88.9	-0.7
	将来の夢や目標をもっていますか	82.2	81.5	+0.7	66.4	66.3	+0.1
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.9	96.9	+0.0	96.3	95.5	+0.8
	学校に行くのは楽しいと思いますか	88.4	85.3	+3.1	84.0	81.8	+2.2
学 習 習 慣 等	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます。）	68.5	70.7	-2.2	51.3	55.0	-3.7
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）（小学校は「30分以上」、中学校は「1時間以上」の割合）	83.2	84.0	-0.8	62.1	65.8	-3.7
	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）	28.1	38.2	-10.1	44.7	55.5	-10.8
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）（10分以上の割合）	56.4	60.0	-3.6	45.7	49.4	-3.7

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

# 「児童生徒に対する調査」の主な結果②

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
地域 社会や	今住んでいる地域の行事に参加していますか	60.4	57.8	+2.6	37.2	38.0	-0.8
	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	75.2	76.8	-1.6	64.1	63.9	+0.2
の I C T 活用 機器	前学年に受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか (インターネット検索など) (「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合)	71.6	62.4	+9.2	66.7	66.1	+0.6
	学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	96.5	95.1	+1.4	94.4	93.3	+1.1
習点主 のから 時間 の 授 業 改 善 、 深 い 学 び の 学 視	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、 話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	59.6	63.7	-4.1	51.4	62.1	-10.7
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	75.6	78.8	-3.2	72.7	79.2	-6.5
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることが できていますか	80.0	81.8	-1.8	77.1	79.7	-2.6
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につな げることができていますか	76.3	77.4	-1.1	64.0	69.2	-5.2
	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表す るなどの学習活動に取り組んでいましたか	75.4	74.8	+0.6	71.2	72.6	-1.4
理 教 解 科 度 の	国語の授業の内容はよく分かりますか	86.6	85.7	+0.9	75.9	80.0	-4.1
	算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか	80.5	81.2	-0.7	66.7	73.3	-6.6
	英語の授業の内容はよく分かりますか				56.8	63.9	-7.1

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

# 「学校に対する調査」の主な結果①

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
生徒指導	調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか	93.0	91.1	+1.9	91.0	88.7	+2.3
	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	93.6	87.6	+6.0	94.6	95.1	-0.5
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか	99.4	98.9	+0.5	100.0	98.3	+1.7
学校運営、 向上に関する 状況、 教員の資質	校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（「週に1回程度、またはそれ以上行った」+「月に数回程度行った」）	83.8	76.5	+7.3	67.4	61.4	+6.0
	教育課程表（全体計画や年間計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かるように作成していますか	98.4	96.3	+2.1	94.6	94.1	+0.5
	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを確立していますか	97.6	96.2	+1.4	99.4	95.2	+4.2
	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加含む）	90.2	84.2	+6.0	88.5	81.1	+7.4
主体的・対話的 な授業改善に 関する取組状況	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	92.1	88.9	+3.2	88.6	88.0	+0.6
	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	82.5	79.0	+3.5	82.6	81.6	+1.0
	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	86.5	83.4	+3.1	88.0	86.2	+1.8
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	95.7	93.1	+2.6	94.0	90.9	+3.1

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

# 「学校に対する調査」の主な結果②

単位(%)

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの合計を示す。

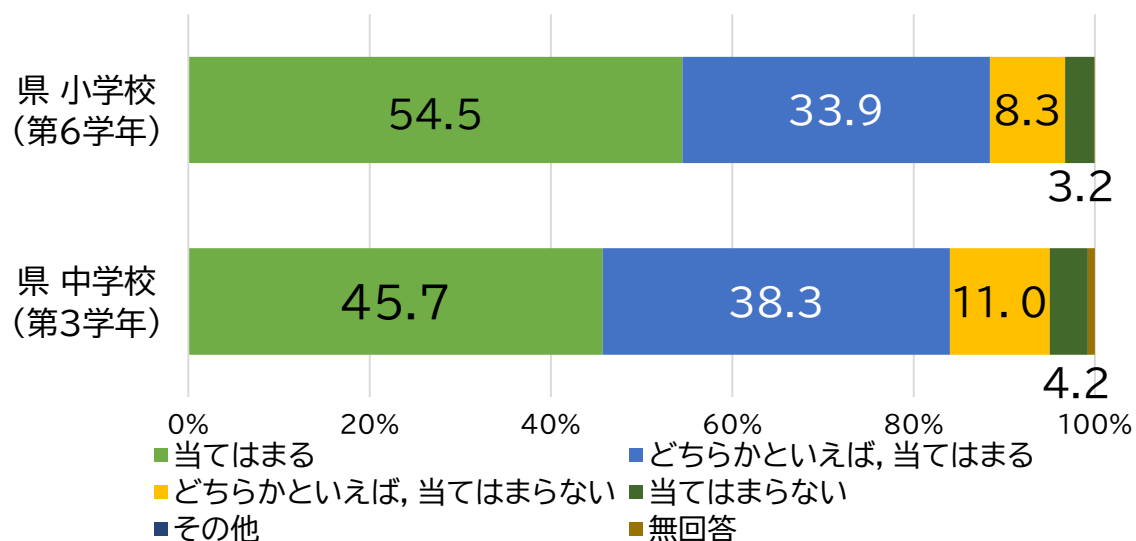
	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
学 習 評 価	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか	93.5	90.3	+3.2	98.2	96.2	+2.0
I C T	調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	73.4	70.0	+3.4	64.5	64.6	-0.1
	調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますかどの程度行っていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	52.0	40.0	+12.0	45.2	33.7	+11.5
小 中 連 携	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	76.2	60.6	+15.6	77.1	66.8	+10.3
	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	67.3	58.2	+9.1	76.5	67.3	+9.2
家 庭 学 習	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか	98.5	95.7	+2.8	94.6	90.9	+3.7
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	94.5	90.6	+3.9	87.9	84.4	+3.5
全 学 活 用 の 結 果 等	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	97.3	96.0	+1.3	97.5	93.0	+4.5
	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	98.8	92.2	+6.6	92.7	88.1	+4.6

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

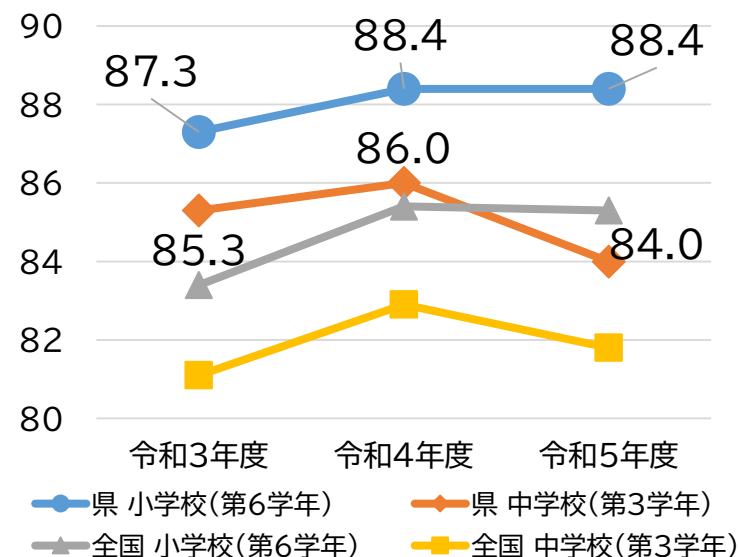
### ① 質問項目

【問 1 2】 学校に行くのは楽しいと思いますか。

### ② 結果



### 経年変化



### ③ 状況と分析

小中学校ともに、8割を超える児童生徒が、肯定的な回答をしています。経年変化をみても、小中学校ともに、全国平均を上回っており、本県が全国平均より2ポイント以上高い状況が続いています。このことから、子供たちにとって概ね安心できる学校生活の場が確保されていると考えられます。

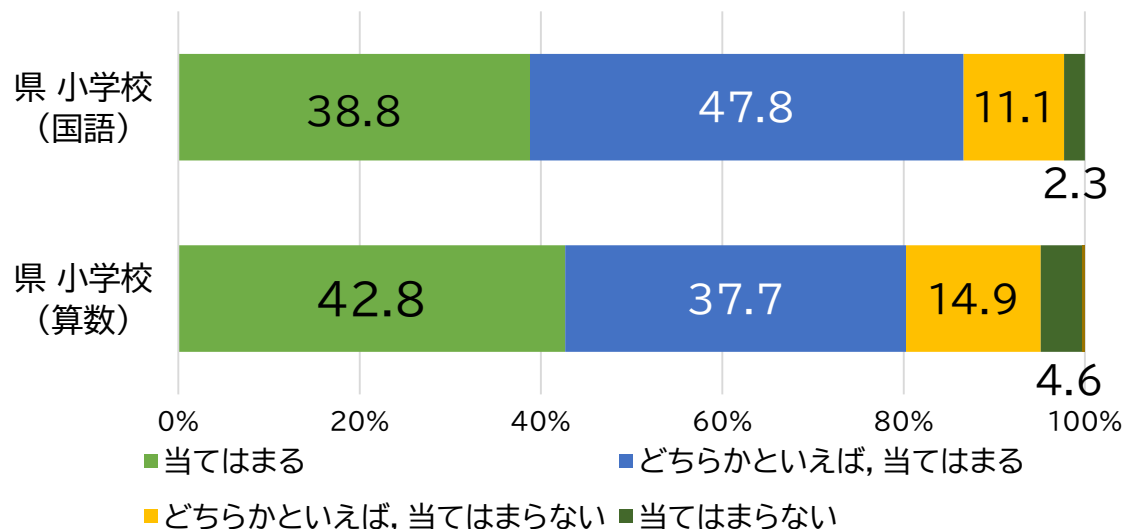
### ④ 今後の取組のポイント

○安心と信頼にあふれ、高め合う学級づくりに向けた「熊本の教師の心がけ10か条」の実践  
 (「熊本の学び推進プラン」p66～p72より)

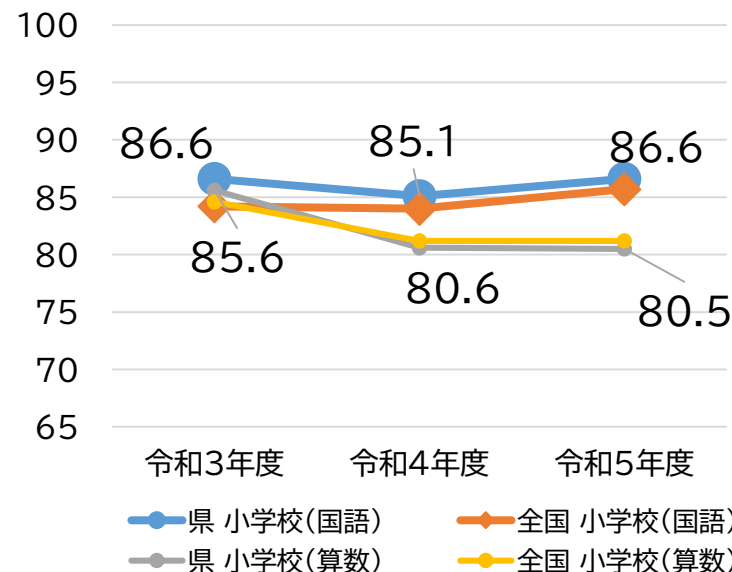
### ①質問項目 (児童)

【問45、問53】授業の内容はよく分かりますか (各教科における)。

### ②結果



### 経年変化



### ③状況と分析

小学校の国語では約9割、算数では約8割の児童が、肯定的な回答をしています。経年変化をみると、国語においては、全国平均より上回った状況が続いています。算数においては、令和3年度は、全国平均を上回っていますが、令和4年度、令和5年度と全国平均よりもやや下回った状況が続いています。

各教科において、子供が「分かった」と実感できる授業を展開していく必要があります。

### ④今後の取組のポイント

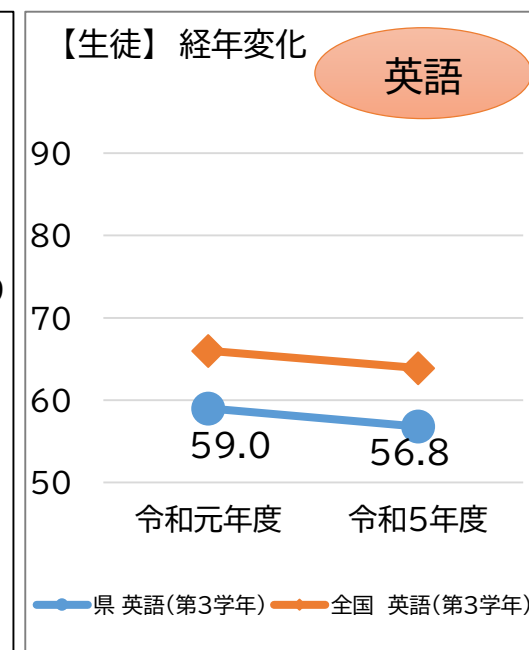
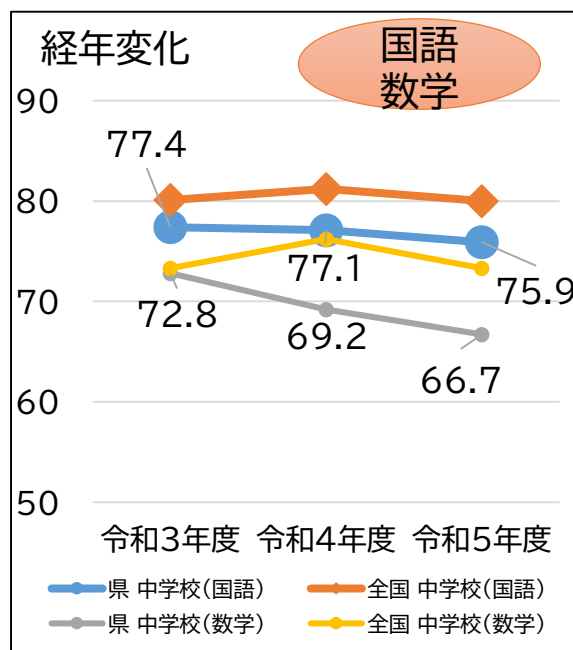
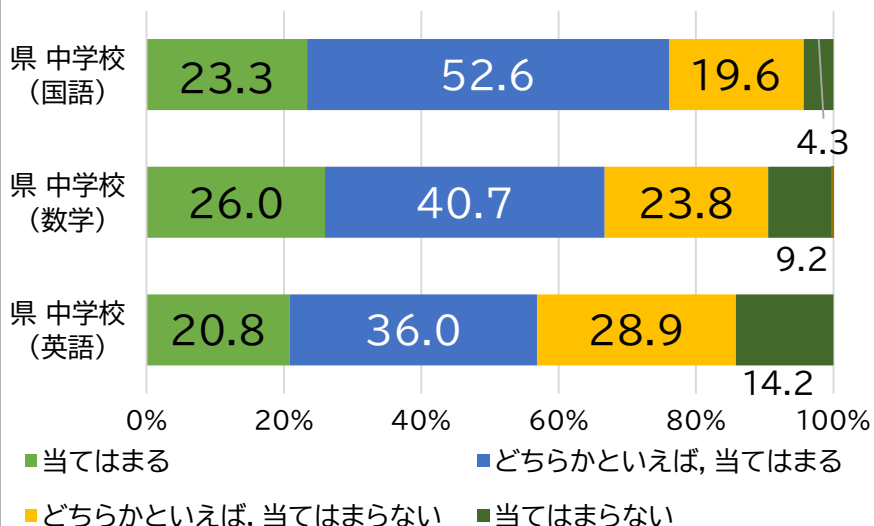
- 授業中の理解が不十分であった児童生徒への支援
  - 日々の授業の中で習熟や定着を図る等の支援 (習熟度別指導等の充実)
- (「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱1の重点取組1より)



### ①質問項目 (生徒)

【問49、問57、問61】授業の内容はよく分かりますか (各教科における)。

### ②結果



### ③状況と分析

中学校の国語では約8割、数学では約7割、英語では約6割の生徒が、肯定的な回答をしています。経年変化をみると、全ての教科において、下降傾向にあり、全国平均を下回った状況が続いています。

各教科において、子供が「分かった」と実感できる授業を展開していく必要があります。

### ④今後の取組のポイント

- 授業中の理解が不十分であった児童生徒への支援
- 日々の授業の中で習熟や定着を図る等の支援 (習熟度別指導等の充実) (「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱1の重点取組1より)



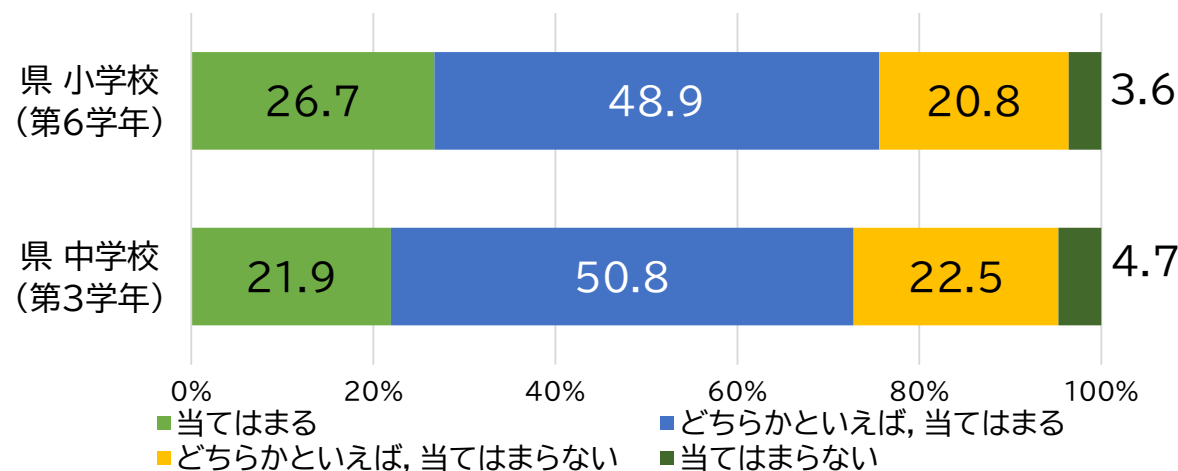
# 1 - (1) 主な質問項目の結果分析 (児童生徒)

参考指標に関する項目  
【参考指標 1】

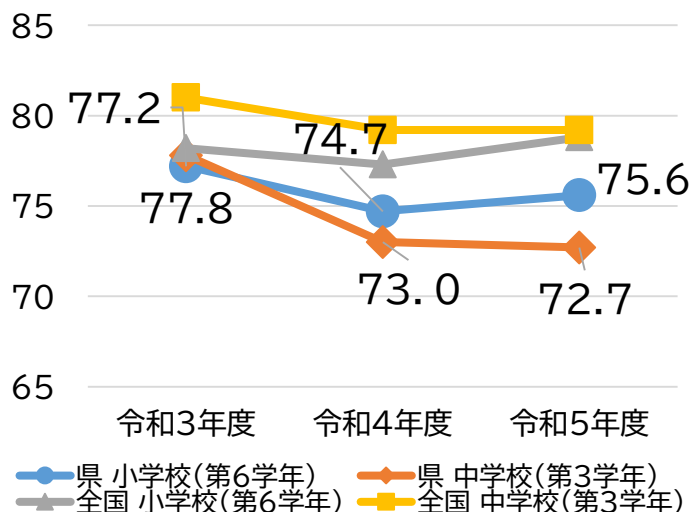
## ① 質問項目

【問 3 3 (小)、問 3 7 (中)】 5年生まで(中学校は1、2年生の時)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

## ② 結果



## 経年変化



## ③ 状況と分析

小中学校ともに7割以上の児童生徒が、肯定的な回答をしています。経年変化をみると、小中学校ともに、全国平均を下回っていますが、小学校では、前回より向上が見られます。

課題の解決に向けて、子供たちが意欲を持って取り組むとともに、自分で考え取り組んでいると実感できる手立てが必要です。

## ④ 今後の取組のポイント

○児童生徒の視点に立った授業づくり  
(「熊本の学び推進プラン」p29「学習者の視点に立った「熊本の学び」へ)

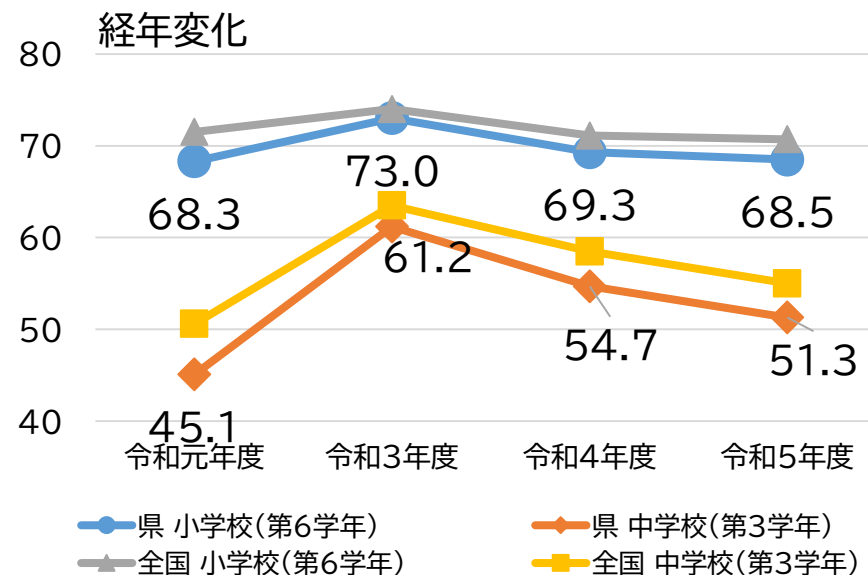
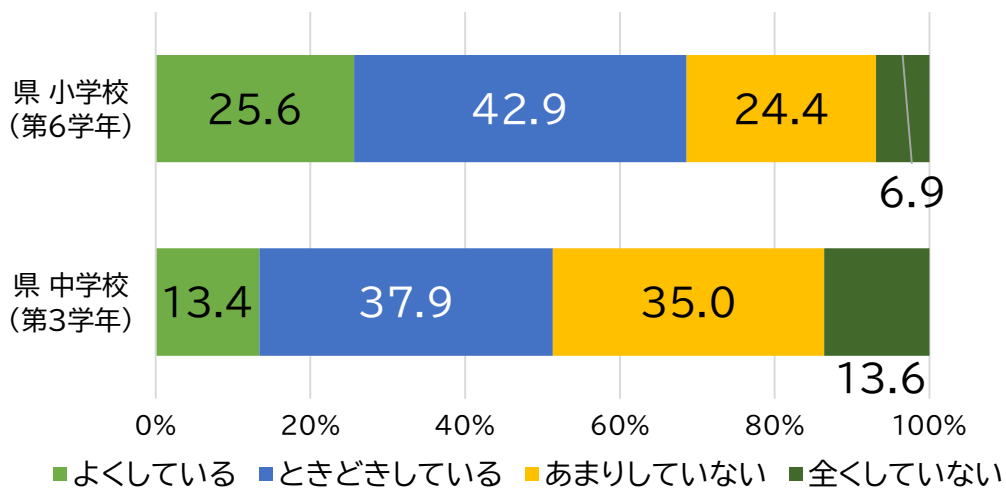
# 1 - (1) 主な質問項目の結果分析 (児童生徒)

参考指標に関する項目  
【参考指標2】

## ① 質問項目

【問16】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

## ② 結果



## ③ 状況と分析

小学校では約7割、中学校では約5割の児童生徒が、肯定的な回答をしています。「よくしている」と回答した児童生徒は、小学校で約3割、中学校で2割を下回る状況です。経年変化をみると、小中学校ともに、昨年度より低下しており、全国平均より低い状態が続いています。

さらに、児童生徒が主体的に家庭学習に取り組むことができるように、児童生徒が内容等を自分で選択したり、判断したりして取り組むなどの手立てが必要です。

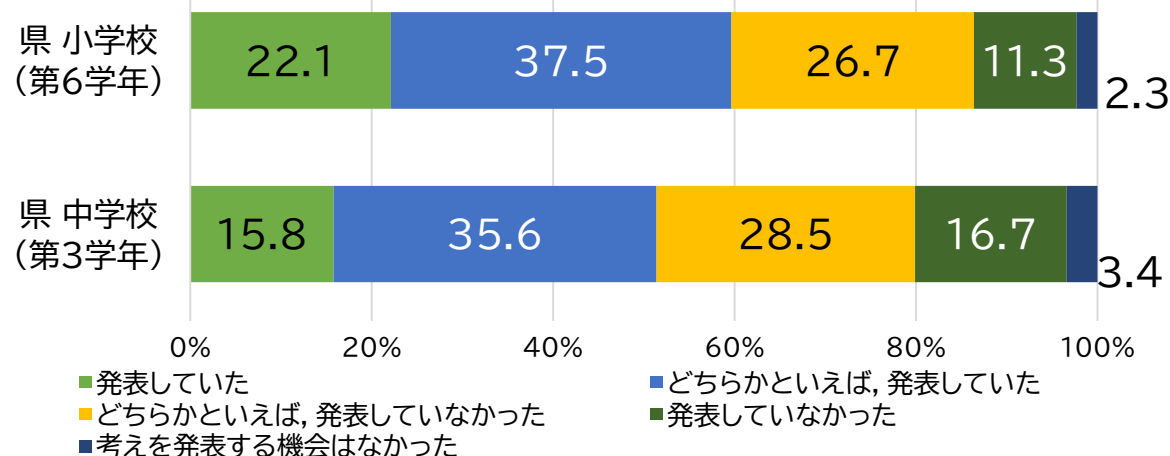
## ④ 今後の取組のポイント

- 家庭学習まで見通した単元デザインの工夫
- 家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習の工夫  
(「熊本の学び推進プラン」p91～p100より)
- ICTを活用した家庭学習の取組

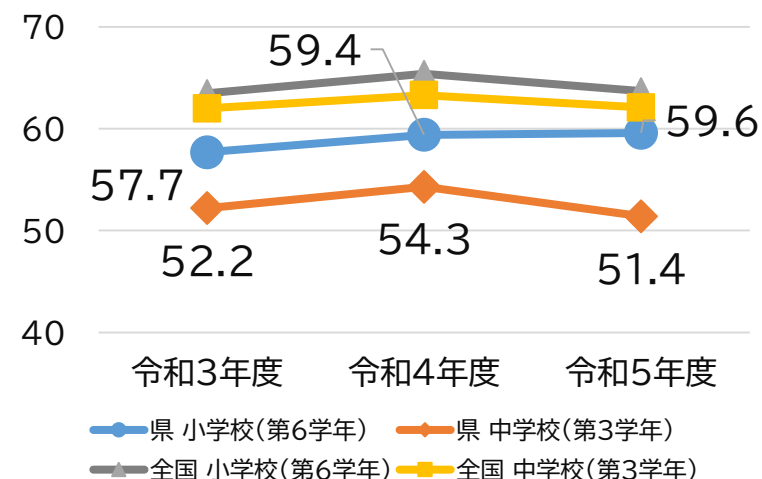
### ① 質問項目

【問32(小)、問36(中)】授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

### ② 結果



### 経年変化



### ③ 状況と分析

小学校では約6割、中学校では約5割の児童生徒が、自分の考えを発表するときに、工夫して発表していたと回答しています。経年変化をみると、全国平均より低い状況が続いていますが、小学校では改善傾向が見られます。中学校では昨年度より全国平均との差が広がっています。

単元全体を見通して、自分の考えを伝えるための情報収集や発表の場を設定するとともに、発表した内容について見直すなどの手立てが必要です。

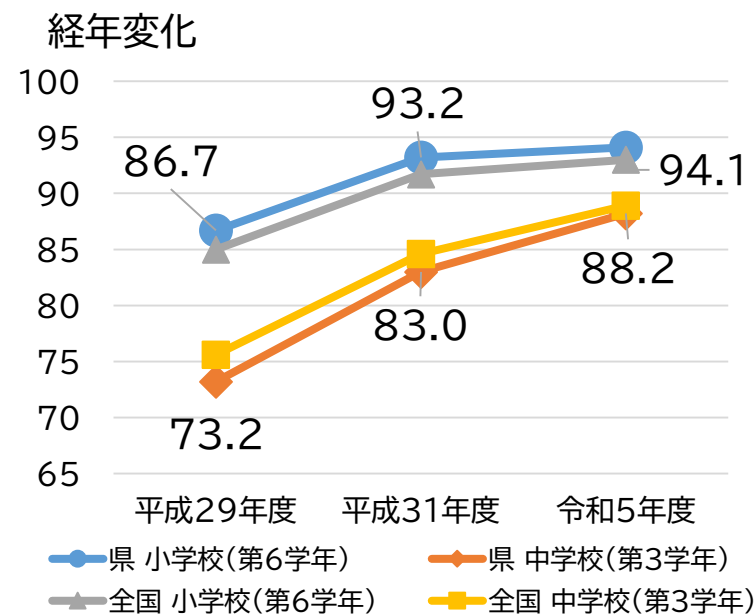
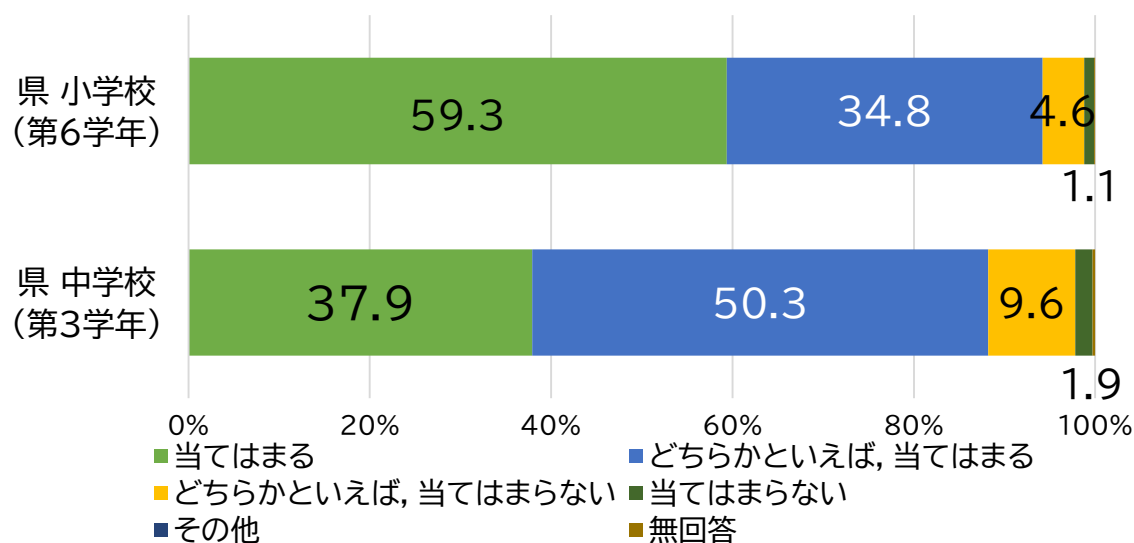
### ④ 今後の取組のポイント

- 発表方法等を工夫するための十分な時間の確保
- 書く目的や条件の明確化（教科書を読む範囲、キーワード、話の組み立て方、根拠や理由の示し方など）  
（「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱1の重点取組より）

### ① 質問項目

【問6】先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。（※H30、R2、R3、R4年度は調査なし）

### ② 結果



### ③ 状況と分析

小学校では9割以上、中学校では約9割の児童生徒が、肯定的な回答をしています。経年変化をみると、小中学校ともに、向上傾向が見られます。特に、小学校では全国平均よりも高い状況が続いており、9割を超えています。

今後も、授業中の理解が不十分であった児童生徒への支援や日々の授業の中で習熟を図る手立てが必要です。

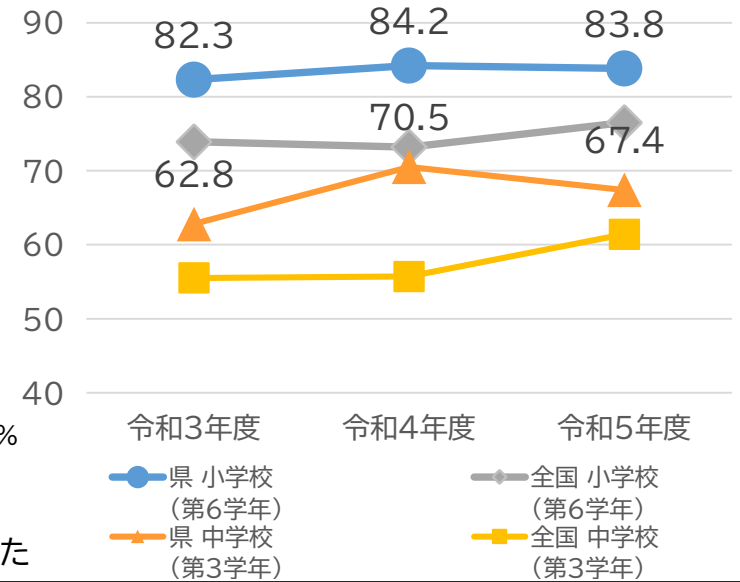
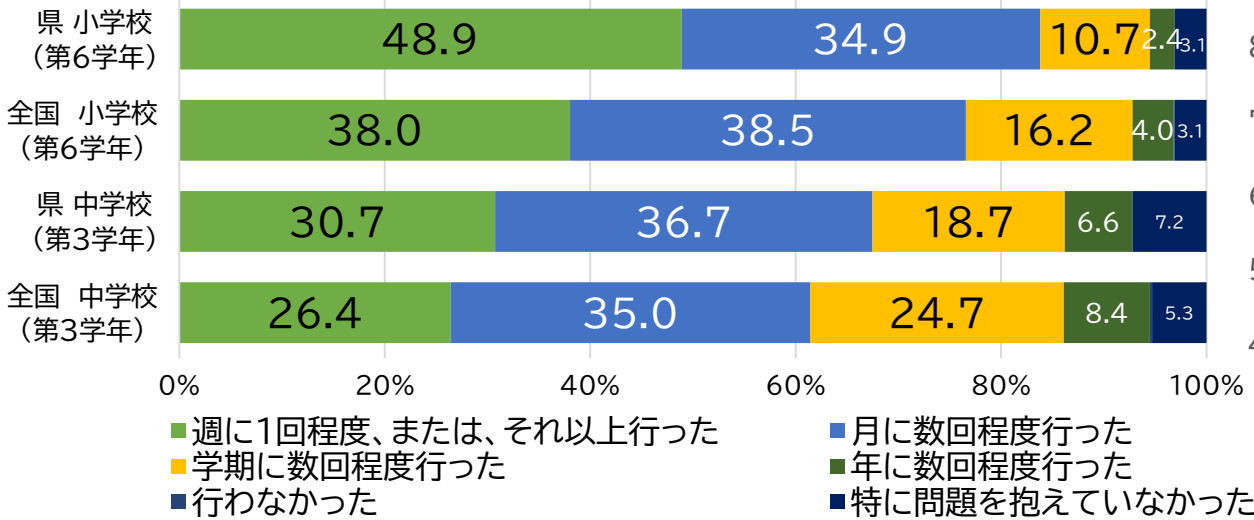
### ④ 今後の取組のポイント

- 授業中の理解が不十分であった児童生徒への支援
  - 日々の授業の中で習熟や定着を図る等の支援（習熟度別指導等の充実）
- （「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱1の重点取組1より）

### ① 質問項目

【問14】 校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

### ② 結果



### ③ 状況と分析

小中学校ともに、「週に1回程度、それ以上」「月に数回程度」と回答した割合が、全国に比べ6ポイント以上高い状況にあります。経年変化をしてみると、小中ともに全国平均より高い傾向が続いています。

このことから、校長が教員一人一人の状況を把握し、課題解決に向けた取組がなされていることが考えられます。

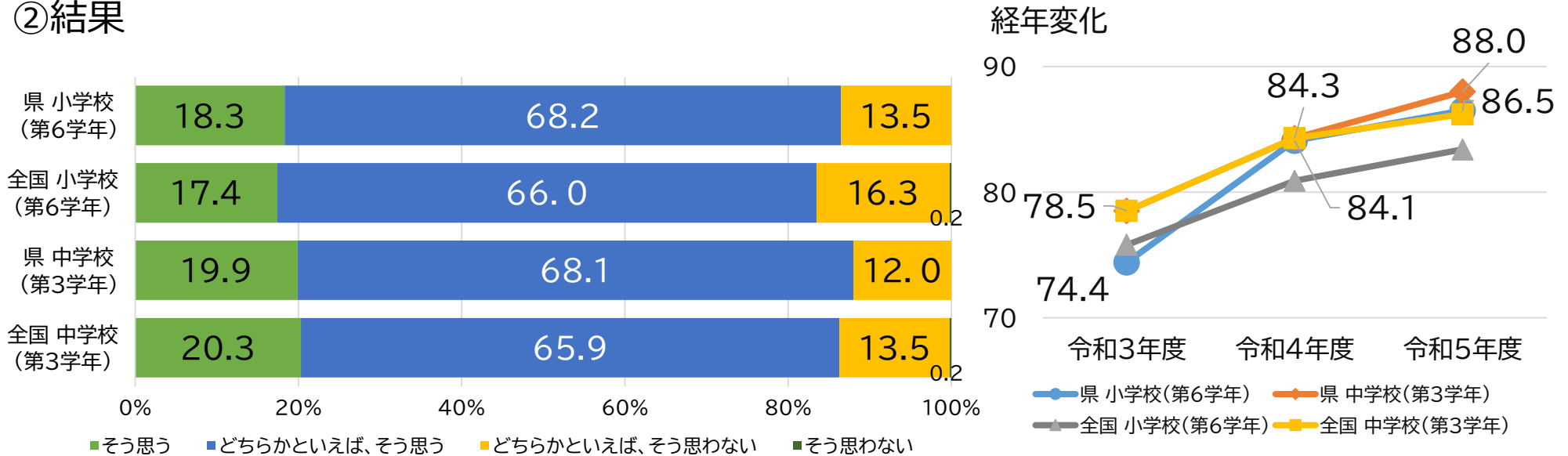
### ④ 今後の取組のポイント

- 授業観察の習慣化と個人面談の設定
- 校内研修の重点化
- 構想、省察の習慣化  
(「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱2の重点取組より)

### ① 質問項目

【問29】 児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

### ② 結果



### ③ 状況と分析

小学校、中学校ともに肯定的な割合が全国値を上回り、肯定的な割合は9割近くにのぼっています。経年変化をみると小中学校ともに昨年度と比較して向上しています。特に中学校では、例年下回っていた全国平均を上回っています。

校内研修等の充実により、自分の考えを深めたり、広げたりする活動の工夫がなされてきており、授業改善への意識が高まっていると考えられます。

### ④ 今後の取組のポイント

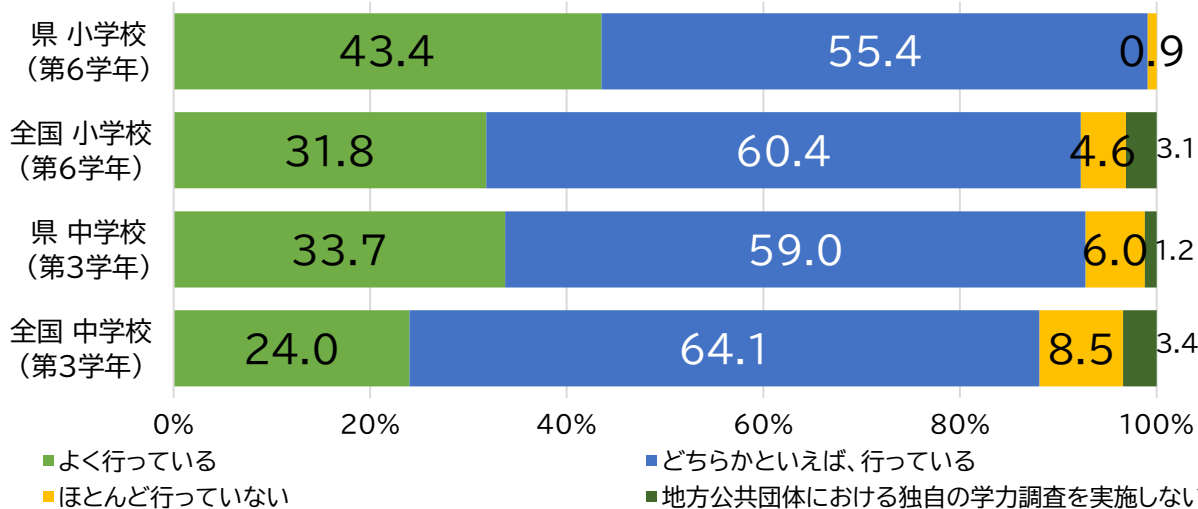
- 単元全体を見通して、自ら取り組む機会を確実に設定
- 校内研修の重点化
- 構想、省察の習慣化  
(「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱2の重点取組より)



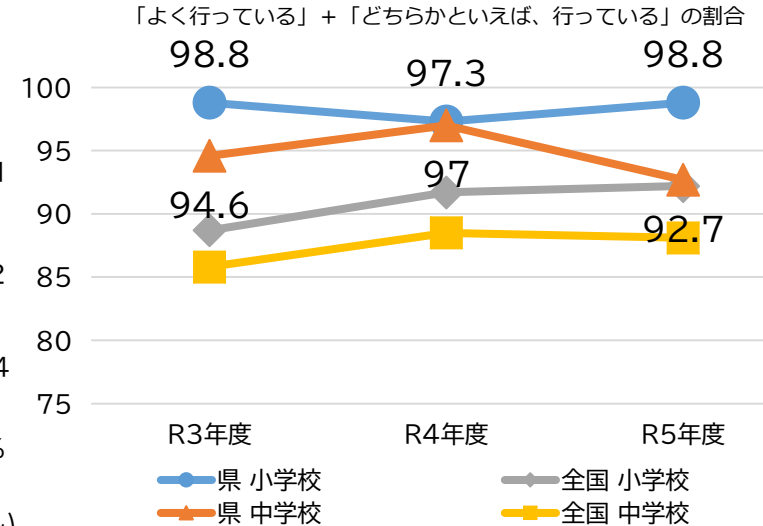
### ① 質問項目

【問小79・中87】全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか

### ② 結果



### 【経年変化】



### ③ 状況と分析

「当てはまる」と回答した割合は、小中学校ともに9ポイント以上全国平均を上回っています。経年変化をみると、小学校が昨年より上昇し、中学校は昨年より下降しています。小・中学校ともに、全国平均より高い状態が続いています。  
各学校が教科や学年の枠を超えて、学校総体となって資質・能力の育成に取り組んでいると考えられます。

### ④ 今後の取組のポイント

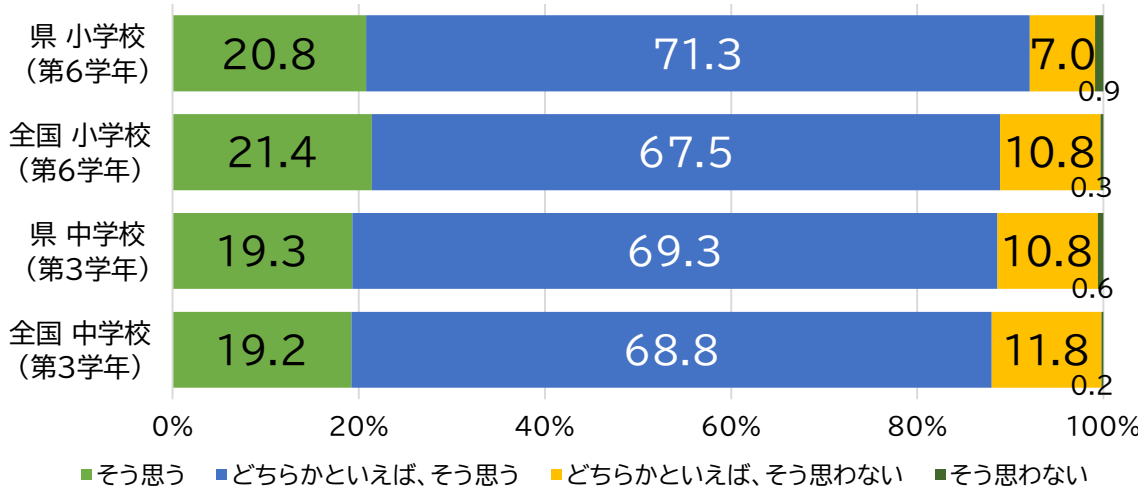
- 12月の県学力・学習状況調査に向けた課題改善の取組
- 子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立  
(「熊本の学び推進プラン」 p75～ p84より)



### ① 質問項目

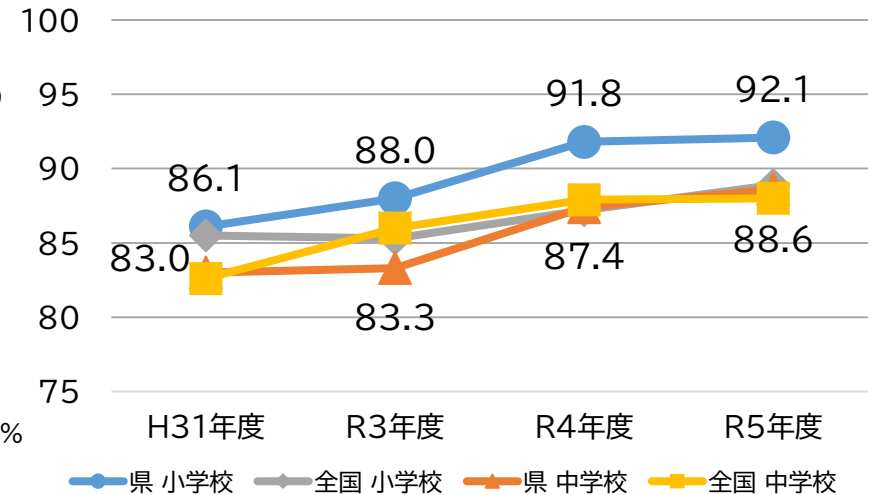
【問26】 児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

### ② 結果



### 【経年変化】

「そう思う」 + 「どちらかといえば、そう思う」の割合



### ③ 状況と分析

小学校では、肯定的な割合が全国値を上回り、中学校では、肯定的な割合は全国値と同程度です。経年変化をみると小中学校ともに昨年度と比較して上昇しています。

このことから、教師は課題の解決に向けて、自分で考え、取り組む学習活動を意識して、取り組んでいることが考えられます。

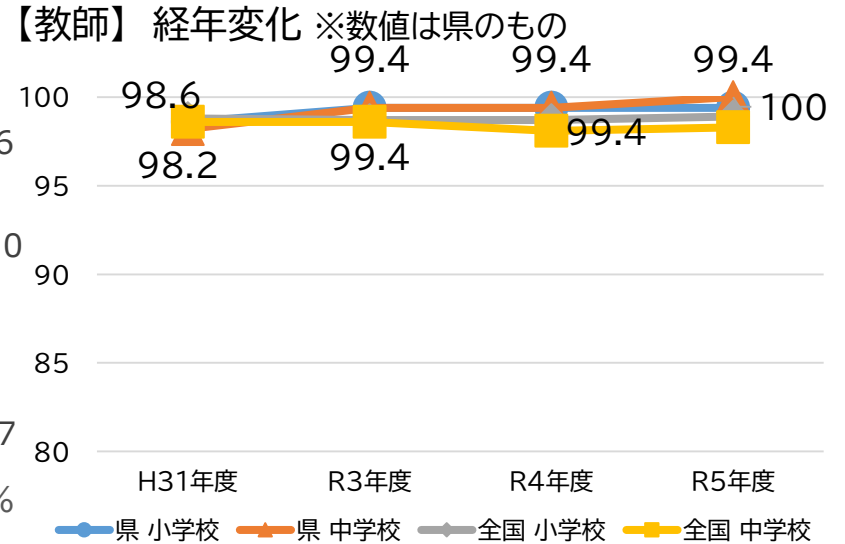
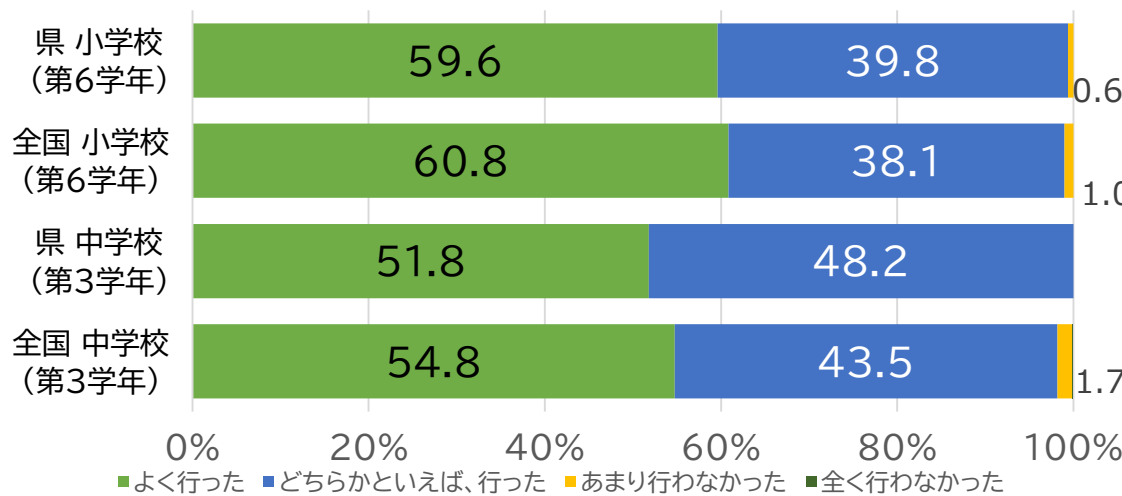
### ④ 今後の取組のポイント

- 単元全体を見通して、自ら取り組む機会を確実に設定
- 単元のゴールに迫る学習課題の設定、学習過程の構想  
(「熊本の学び推進プラン」 p 31 より)

### ① 質問項目

【問 1 3】 前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか

### ② 結果



### ③ 状況と分析

小中学校ともに、全国平均を超え、肯定的な回答の割合が小学校で10割近く、中学校で10割と高い数値を示しています。

経年変化をみると、昨年度と同じ状況が続いています。

このことから、教員が児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価しており、子供と教師の信頼関係が高まりが継続していることが考えられます。

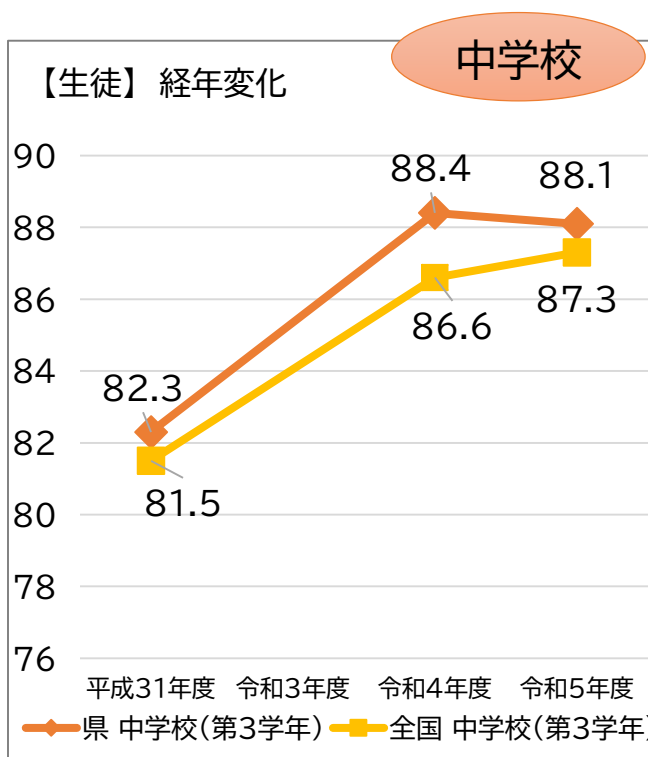
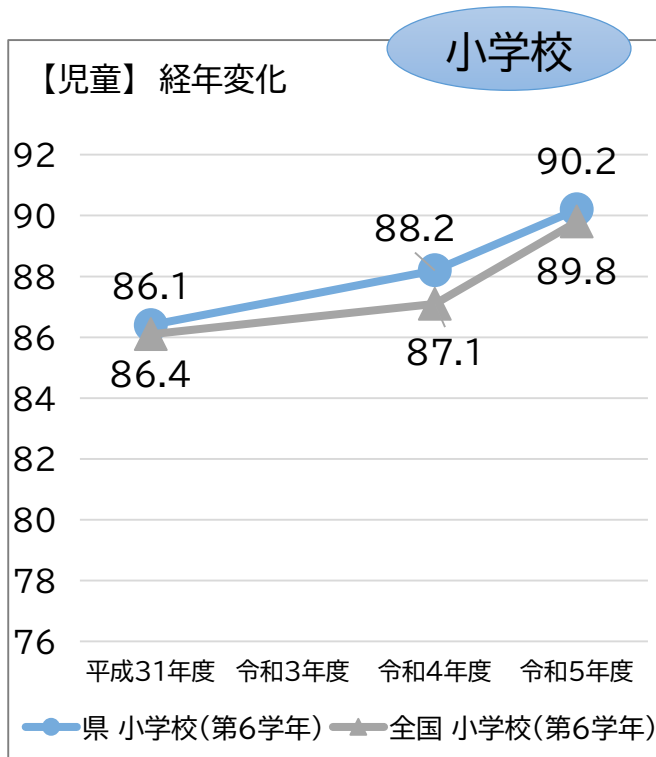
### ④ 今後の取組のポイント

○安心と信頼にあふれ、高め合う学級づくりに向けた「熊本の教師の心がけ10か条」の実践  
 (「熊本の学び推進プラン」 p 66 ~ p 72より)

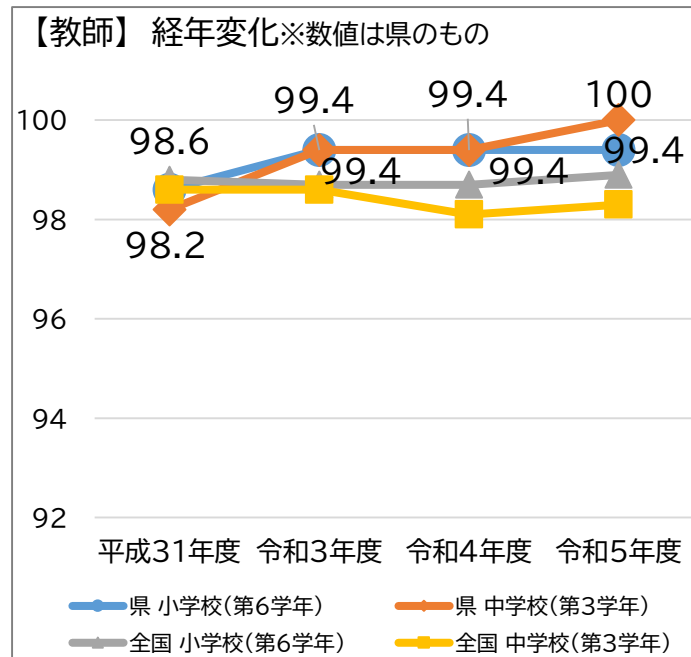
## 2 児童生徒と学校（教員）の意識の差①

◇質問紙調査の分析(教育行動指標関連項目)

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。  
※R3年度は調査なし



前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか。



○小中ともに、全国平均を上回っており、全国平均より高い状況にある。

○小中共に全国平均を上回っている。  
○中学校において、全国平均との差が開いている。

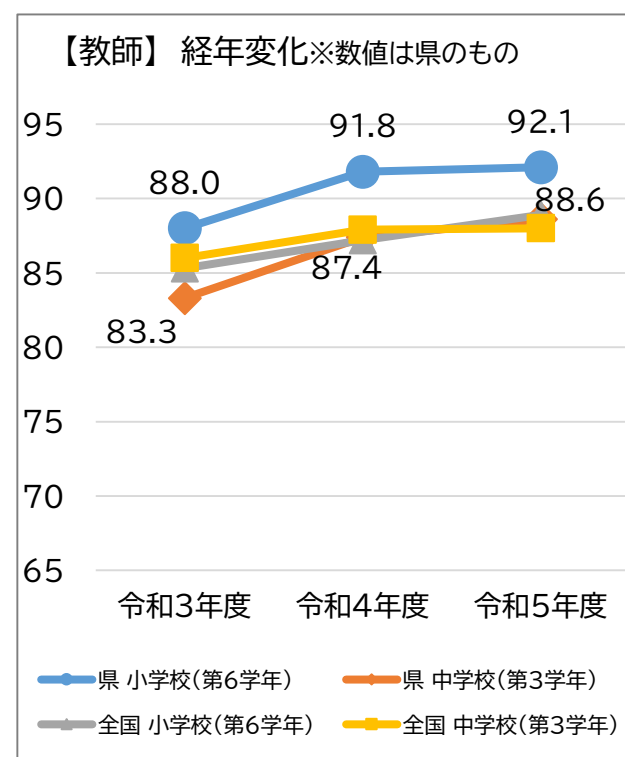
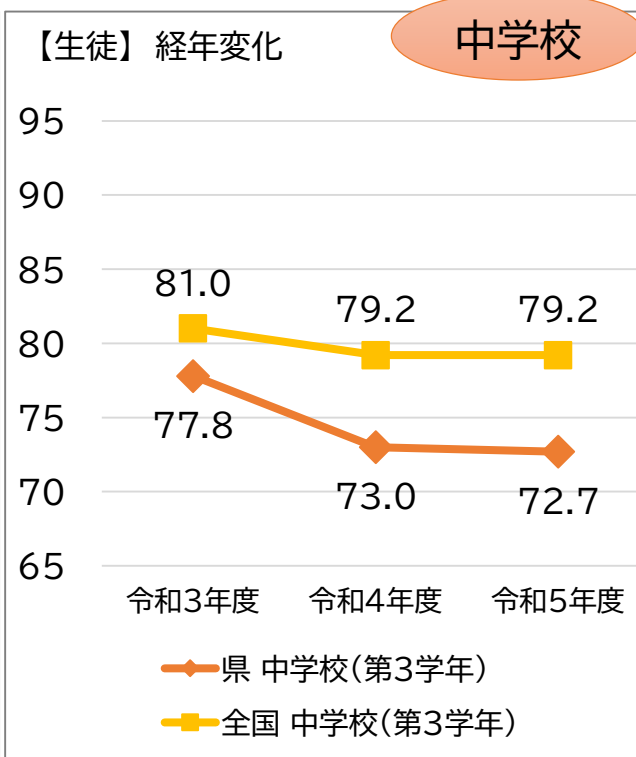
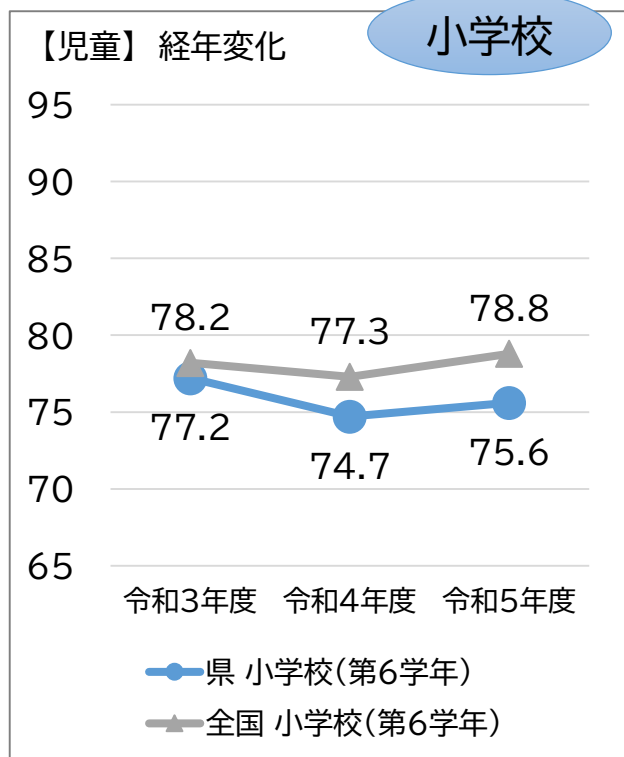
児童生徒と教員の意識の差はなく、全国平均よりも高い状況にあり、各学校において、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」の県教育行動指標を踏まえた取組が充実していることが考えられる。

## 2 児童生徒と学校（教員）の意識の差②

◇質問紙調査の分析（「参考指標1」及び「熊本の学び」アクションプロジェクト関連項目について）

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合



○小中学校ともに、全国値を下回っている。  
○特に、中学校で全国との差が大きい。

○小中学校ともに、前回より向上している。

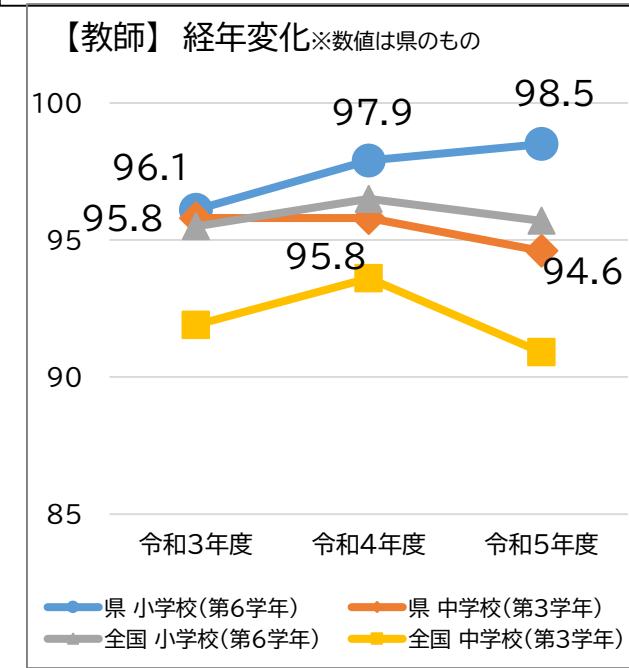
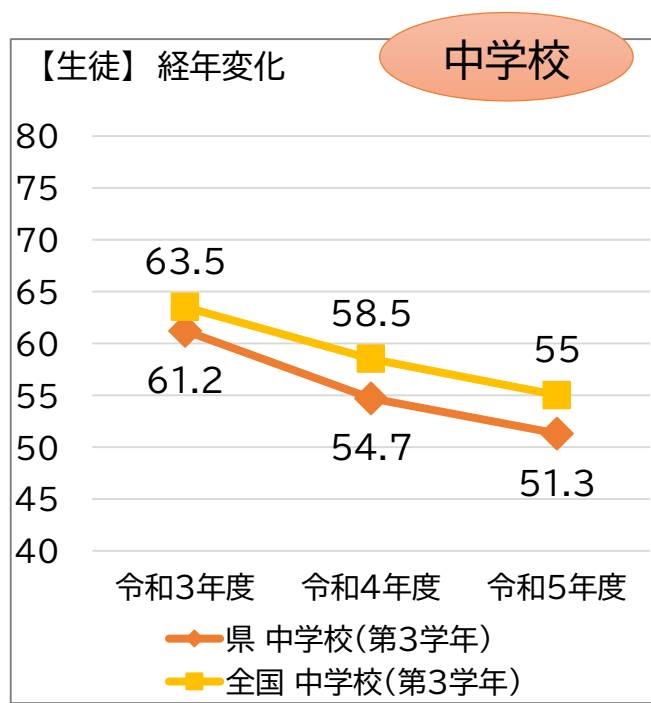
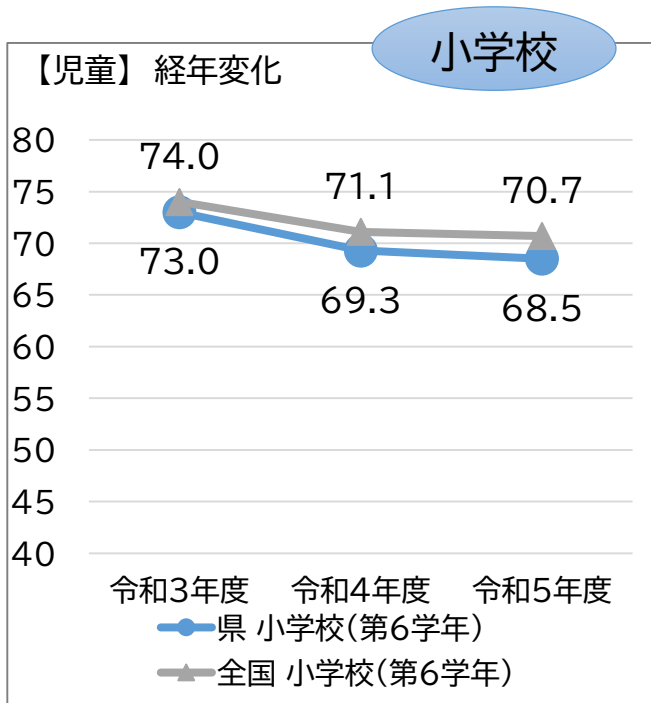
児童生徒と教員に意識の差があり、課題解決型の授業を更に推進していく必要がある。

## 2 児童生徒と学校（教員）の意識の差③

◇質問紙調査の分析（「参考指標2」及び「熊本の学び」アクションプロジェクト関連項目について）

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む。） 「している」+「ときどきしている」の割合

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。「よく行った」+「どちらかといえば、行った」の割合



- 小中学校ともに、全国平均より低い状況が続いている。
- 前回と比較して、小学校では全国との差が開き、中学校では昨年同様の差の開きである。

- 小中学校ともに、全国値を上回っている。
- 依然として高い傾向にあるが、中学校で下降傾向にある。

児童生徒と教員に意識の差があり、児童生徒が家庭学習の内容等について自分で選択したり、判断したりするなどして、児童生徒が自分の学びを自覚して取り組めるようにする工夫が必要である。

### 3 成果と課題

#### 【成果】

- 小中学校ともに、児童生徒が「学校に行くのは楽しい」と感じている。
- 教員が、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価しており、子供たちも、「よいところを認めてくれている」と感じている。
- 教員の授業改善への意識が高まってきている。

#### 【課題】

△児童生徒の学びに向けた主体性の発揮

⇒教員の、児童生徒を学びの主体とするための取組の充実

△児童生徒の学習内容の理解度

⇒各教科での課題の克服に向けた取組の充実

## 4 今後の取組（各学校での取組に向けて）

① 「児童生徒を『学びの主体』とするための指導の充実」と「各教科における課題の克服」に向けた取組

- ① 授業における**主体的な学びを促す学習活動**の充実を
- ② **家庭学習**における主体的な学びの充実を
- ③ **定着確認**の徹底を



② 各学校での取組

- ① 学校教育目標（学年・学級経営、校内研修等）の実現につながる質問項目の**洗い出し**を
- ② 洗い出した質問項目について、表やグラフで**可視化**を
- ③ 結果を分析し、**課題改善の取組**を（いつ・何を・どのように把握）

※ 県教委HP：各学校での分析と校内研修での活用について【質問紙調査編】参照

※R5. 12月の県学調にて **〔取組の検証〕** ※R6. 4月の全学調にて



## 4 今後の取組（取組の検証について）

〔取組の検証〕

※R5. 12月の県学調にて

※R6. 4月の全学調にて

### 本県の課題の改善に向けた指標

【参考指標1】児童生徒質問紙  
授業では、課題の解決  
に向けて、自分で考え、  
自分から取り組んでい  
ましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば、当て  
はまる」の割合の向上

【参考指標2】児童生徒質問紙  
家で自分で計画を立て  
て勉強をしていますか。

「よくしている」+「ときどきしている」の  
割合の向上

【参考指標3】児童生徒質問紙  
授業の内容はよく分か  
りますか。（各教科にお  
いて）

「当てはまる」「どちらかといえば、当て  
はまる」の割合の向上



### 各学校の課題の改善に向けた指標

各学校で設定した指標

状況の向上